

東日本大震災

宮城県・名取市 現地調査報告書

- I 調査活動の概要
- II 報告レポート
- III 資料（地図、写真）

2011年4月24日、自由法曹団東日本震災対策本部のスタッフは、宮城県を訪問し、名取市の被災状況を見分し、被災者との懇談を行った。4月2日の若林地区・石巻市・女川町の調査に引き続く、第2回の調査である。この冊子は、現地調査の内容等を取りまとめたものである。

2011年 5月 2日

編集 自由法曹団東日本大震災対策本部

発行 自由法曹団

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-3-28-201

Tel 03-3814-3971 Fax 03-3814-2623

URL <http://www.jlaf.jp/>

I 現地調査の概要

【日時】 2011年4月24日

【場所】 宮城県名取市

【参加者】（自由法曹団員の敬称略）

対策本部（18名）

秋元理匡、伊賀興一、今村幸次郎、枝川充志、神原元、菊池紘、久保木亮介、小林善亮、小部正治、近藤ちとせ、沢井功雄、斉藤耕平、芝田佳宜、杉本朗、鷺見賢一郎、田中隆、平井哲史、松井繁明、横山聡

宮城県支部（6名）

庄司捷彦（石巻市）、小関眞、小野寺義象、草葉裕之、菊池修、渡部容子
（以上仙台市）

調査後の対策本部会議からの参加

大峰仁、齋藤正俊（福島）

自由法曹団外の協力・参加

案内役として、名取市議会議員小野寺美穂さん（日本共産党）

名取市文化会館避難所の班長・櫻井一雄さん

伊賀団員のご家族1名

青法協の修習生部会から8名参加

【基礎データ】（枝川団員の事前調べ）

（1）総人口：72,616人(-886)（平成23年3月31日現在、（）は前月比。）

住民基本台帳人口 男：35,400人(-445)、女：36,950人(-434)

計：72,350人(-879)

外国人登録：266人(-7)

世帯数：26,239世帯(-194)

（以上、名取市HPより）

（2）被害等状況（4月23日現在）

被害の最も大きい場所としては、閑上、下増田

ア 人的被害

死者：887名、行方不明者：231名

避難所数：11箇所、避難者数：1187名

イ 物的被害

住居の状況：調査中 ライフライン：ほぼ復旧

（以上、宮城県HPより）

【調査活動の概要】

10：45 仙台駅集合。

11：00 バスに搭乗。小野寺議員による名取市の被災状況を聞きながら、仙台市内を移動、名取川を渡り名取市へ入る。

11：40頃 名取市閑上（ゆりあげ）に到着。下車して、海岸近くの丘の上から、被災状況を視察。

バス再搭乗し、移動。海水の引かない田畑、津波で機能を失った排水機場などを車内から視察。

12：30頃 仙台空港到着、周辺を車内から視察。

13：00頃 名取市文化会館（避難所）到着、下車し避難所内を若干見学

13：30頃 仙台市内に長町にある建設中の仮設住宅を車内から視察。

14：00 仙台弁護士会館に到着。301号室にて震災対策本部会議。

17：00 会議終了、解散

Ⅱ 報告レポート（名取市現地調査報告）

枝川 充志

1 名取市（閑上）訪問

（1）仙台駅発

4月24日、11時過ぎ仙台駅からバスに乗り、名取市の被災地へ向かった。途中、バスの中からみる仙台市内の風景は、少なくとも表面上は、被災があったとは思われない程平穏なものだった。しかしところどころで補修のため屋根にブルーシートが被せてある家が散見された。

（2）東部道路から

11時40分頃、東部道路に沿って閑上（ゆりあげ）地区がある海岸沿いの被災地に近づくにつれて、ガレキが徐々にあらわれはじめた。家や建物が残っているものの、もともと周辺が住宅街だったのか、田畑だったのかは、目の前に広がる光景からは全く判断できない。ただ、ガレキが徐々に増え始めた。

車中から閑上地区を見わたすと、ガレキだらけの光景が一面に広がっていた。もとの状態がわからないので、被害がどの程度のものか判別不能である。明らかだったのはとにかくガレキだらけになっているということである。

おそらく被災時に比べると、ガレキは整理され道が確保されたのだと思うが、1か月以上たった今も、なおガレキがそのままになっている光景が広がっている。途中、自衛隊の車をみかけるとともに、警察が交通整理をしていた。たまに人が歩いているのを見かけるが、時間が止まっているような感覚すら覚えた。

（3）閑上にて

東部道路をおりて閑上地区に入る。今回、名取市でもっとも被害が大きかったのは海岸沿いにある閑上と下増田である。周囲一体はほとんど何もなく、ただガレキや一階にゴミがひっかかっている建物がポツポツと散見される光景がこれでもかというぐらいに眼前に現れる。遺跡のように土台だけが残っている住居跡、辛うじて残っている住居、場所によってこのような違いがでてるのはなぜか。

閑上に入りバスを降りた。10メートルほどの小高い丘に上がると、閑上全体を見わたすことができた。一体はガレキだらけである。空爆を受けたかのように破壊された家。ピンポイントではなく、街全体がやられた感じである。人為的には不可能なぐらい破壊されている。

1キロ～2キロほど先には海岸が見える。風が強かったせいか、波は高く寄せては返す白波がはっきりみえた。そこから津波がやってきて、生活が

根こそぎ奪われてしまう光景など、ヨソ者には想像だにできない。

“ガレキ地帯”を歩いてみると、屋根瓦や漁網、ノートパソコン、餅つき器、便器など、様々な生活用品が至るところに落ちていた。実際は落ちていたというより、散乱していた。さらには土の中に埋まっていたという方がより正確である。人が生活していた様子を伺わせるが、いまや無人地帯。町はもはや消滅してしまっていた。

(4) 仙台空港へ

再びバスに乗り仙台空港に向かう。途中、バスが家に乗りあげたまま突き刺さっていた。

破壊された車、一階が中まで見通せる家々、道路沿いに根っこから直角におれている電柱の数々、グチャグチャになったメロン栽培用のビニールハウスの残骸。こんな光景が次から次へと現れる。海水浴場、朝市の市場も跡形もなくなっていた。

12時半頃、仙台空港を車中から見る。開港していたものの、空港周辺にあったとされる駐車場はその面影はない。周辺にお店があるも休業状態。

途中見かける田んぼには茶色い海水がよどんでおり、乗用車、瓦葺き屋根、木片、船などが至るところに散乱していた。

(5) 避難所（文化会館）へ

その後、名取市内にある避難所を訪れた。避難所の隣には住宅展示場があった。これに対し避難所には段ボールで囲った生活空間があった。この避難所で班長を務める櫻井一雄さんにお話を聞いたところ、次のようなものであった。

3月20日頃には1200人いたが、現在は400人を割るぐらいの規模になっている。構成としては7割が高齢者で、他に30代ぐらいの人、小学生、中学生がいる。避難所を去った人々は、県外に行ったり親類を頼っている。食事については、朝はパンと牛乳とバナナ、夜は仕出し弁当で、2週間前ぐらいからボランティアが入るようになり、野菜や肉を中心とした食事もできるようになった。

避難所の一番の問題はプライバシーである。女性の着替えはトイレで行われており、これらの改善が急務となっている。また健康状態について問題でほこりなどでのどをやられる。

仮設住宅や支援についての情報も十分とはいえない。仮設住宅が整うのは9月か10月といわれている。4月末には完成するものもある。とにかく早く仮設住宅に入りたい。しかし入った後の手当や仕事はどうなるか心配である。また、流された家やお墓、船がどうなるのか、心配の種はつきない。

2 小野寺市議の話

バスの中で伺った、被害に係る小野寺・名取市市議のお話の概要は以下のとおりである。

(1) 閑上の被害

閑上には2700世帯があるが、ほとんどがつぶれ、その結果、町全体がつぶれてしまった。被災者は60歳以上の人が大半で、日中家にいるような人が被害にあった。

閑上の産業としては、バラやカーネーションがあるが、これもダメになった。漁業にいたっては船がなくなり、水産加工も壊滅状態である。

閑上の方はダンス預金をしている傾向がある。そのためお金も一緒に流れてしまった。家が何とか無事の方は逆にいてもたってもいられない状況にある。実際に家の中に侵入する者がおり、家の中を荒らされることから、昼間は家に戻っている人もいる。

(2) 避難所の状況

避難所にいる人は平気そうな顔をしているが、実際はそうではない。支援物資はたくさんある。マットや毛布、古着もたくさんある。しかし長く避難所にいると必要なものは一定ではない。

また、避難所によってニーズが異なる。特に食生活は問題。調理場がある学校などは避難されている方が自ら調理できるが、体育館ではそれができない。その場合、朝食はおにぎりとお水、パン一斤と牛乳といったケースもある。そのため自ら買い出しにしているというケースがある。強くお願いしてやっと仕出し弁当がでるといった状況である。また、家が安全な人が炊き出しに来ると、避難所にいないという理由で追い返されるということも起きている。

避難所での生活で、被災者がどのようなことに困っているのか、どのようなニーズがあるのか、名取市は把握していない。また情報が行き渡っていない。被災者は自らのニーズを知ってほしいし、どのような情報があるのか知りたいと思っている。

(3) 塩害

田んぼや畑が塩害でやられている。名取市では農業が基幹産業であるが、水田の52%が塩害でダメになっている。現在、名取市と岩沼市を中心に「塩害地域」「作付け自粛地域」「作付け可能地域」の分類がなされているが、このうち塩害にどう対処するかが課題である。

塩害がないところでも水がひかないので作付けができない。名取市には5カ

所の排水機場があるが、これがすべて破壊された。これら排水機は昭和40年代頃のものなので、あらたに設置し直すしかない。しかし、1カ所20億円の施設が5カ所あるので、国の支援が不可欠である。

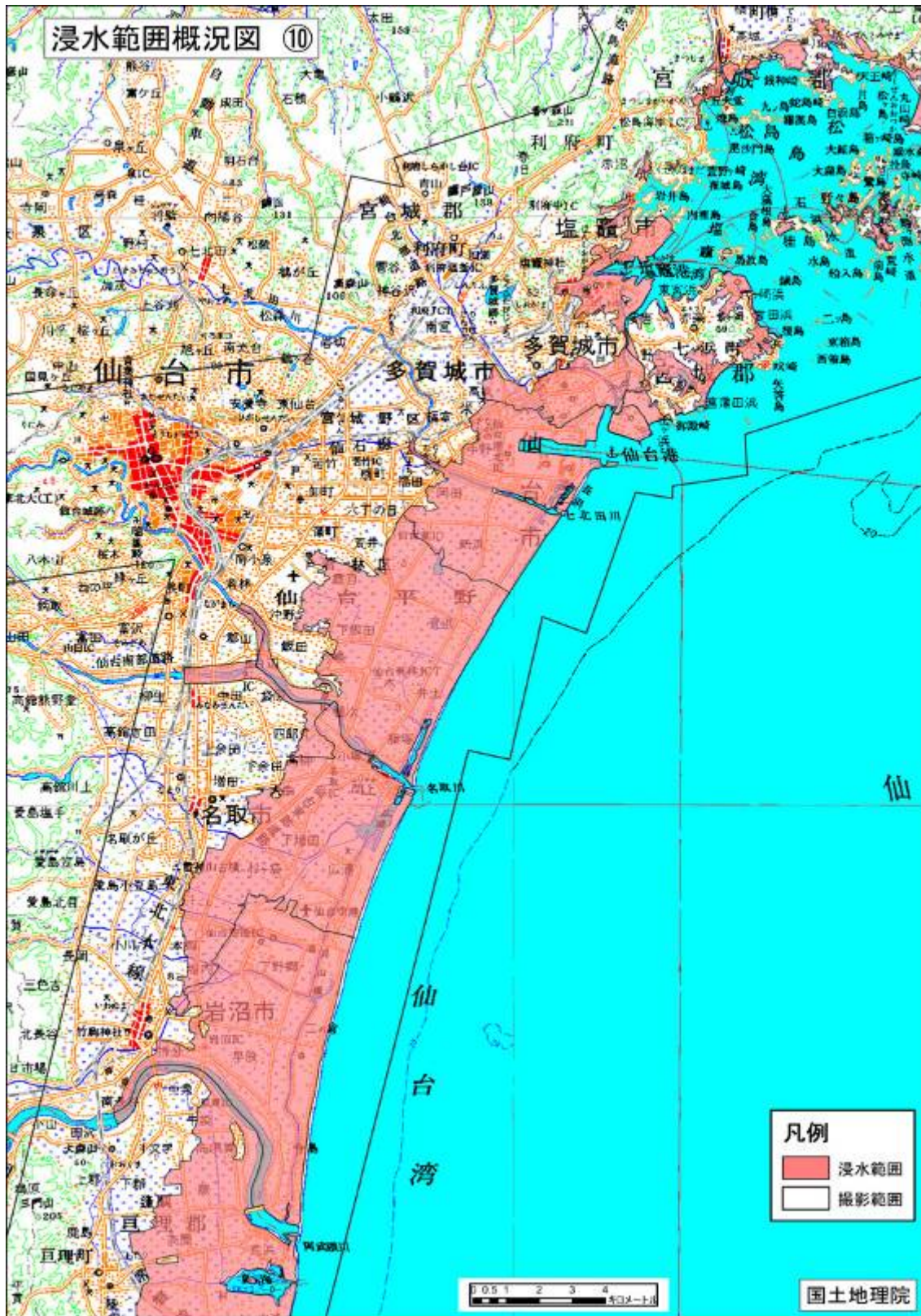
(4) 全般（その他）

震災発生前に生活が困窮状態にあった人は、今回の震災によりいよいよ苦しくなっている。震災格差が発生している。

節水が叫ばれているが、下水処理もまた問題となっている。下水管の修復をしているが、浄化センターがパンクしている。

災害弔慰金として名取市に18億円が配分されているが、まだ行方不明者がいるとのことでなかなか拋出されない状況がある。

III 資料 1 地図：国土地理院 浸水範囲概況図



2、被災地の写真



閑上（ゆりあげ）の現況1
家は流され、土台部分だけが残る



現況2 津波により流された漁船
田畑に残された海水が塩害を生む



現況3 瓦礫の撤去が進みつつある
跡には何も残されていない



現況4 海岸すぐ近くの丘の上より。
犠牲者への供花、その向こうに海岸線



仙台空港へ。海水が引かない田畑が続く。



仙台空港周辺。